

3. 千代田区のスポーツの現況

3.1 概要

- ◆区民のスポーツ実施率は、52.2%で、5年前に比べ0.1ポイント低下。
- ◆散策やウォーキングなど身近なスポーツを定期的に行っている区民が多い。
- ◆『忙しさ』や『疲労感』がスポーツの妨げに。
- ◆子どもたちの体力は5年前に比べ、向上。特に50m走と立ち幅跳び優秀。
- ◆区民健診の結果、生活習慣病&予備軍増加傾向。
- ◆区立中等教育学校(後期課程)では15種目の運動部活動、中学校では16種目。
小学校では、ミニバスケットボールクラブ、少年野球、ジュニアスイミングクラブ。
- ◆富士見スポーツ・文化クラブでは、100名を超える会員が6種目で活動中。
- ◆区立スポーツ施設…屋内7施設(プールを含む)、屋外3施設
- ◆スポーツ推進委員は23名。
- ◆スポーツ教室・講習会の参加者は、スポーツセンターの「週間プログラム」を含め、延べ1万人以上が参加。
- ◆スポーツ競技大会…22種目、67大会(平成23年度)
- ◆区のスポーツ振興費は、年間2.3~3億円

3.2 区民のスポーツ実施状況と体力・健康の現状

(1) 区民のスポーツ実施率

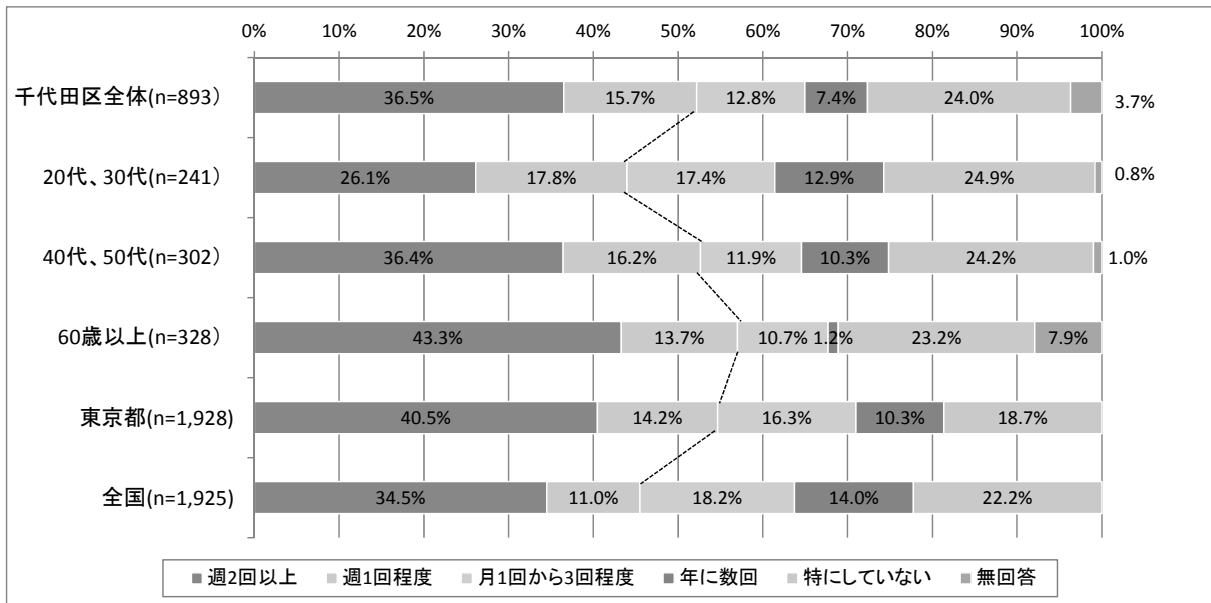
第39回千代田区民世論調査（平成24年度実施）の結果、千代田区の成人のうち、運動・スポーツを「週2回以上」行っている区民は36.5%、「週1回程度」行っている区民は15.7%でした。したがって、週1回以上、運動・スポーツを行っている区民は、52.2%となります。

年代別にみると、週1回以上、運動・スポーツを行っている区民の割合は、20～30代が43.9%、40～50代が52.6%、60歳以上が57.0%となっており、年齢が高いほど、実施率が高い傾向にあります。特に、60歳以上は、週2回以上が43.3%となっており、60歳以上のスポーツ実施率が高くなっています。

千代田区では、5年前と比べスポーツ実施率に大きな変動はなく0.1ポイントの減少となりました。別途調査によると、東京都は54.7%で5年前と比べ2.3ポイントの増加、全国では45.5%で6.7ポイントの増加と対照的な結果となっています。

リフレッシュすることや健康増進、生きがいの創出などスポーツの持つ効用を実感するためには、まず、体を動かすこと、そして、継続していく必要があります。また、高齢社会を迎える現代においては、いつまでも健康であり続けることが大切です。このため、若い世代からの生活習慣病予防のための取り組みとして、各世代におけるスポーツ実施率の向上が必要となっています。

図表 3-1 区民のスポーツ実施率



(出典) 千代田区民世論調査(平成24年度実施)

注: 東京都のデータは「都民のスポーツ活動に関する世論調査」(H24年10月)より、全国のデータは内閣府の「体力・スポーツに関する世論調査」(H21年9月)を一部加工

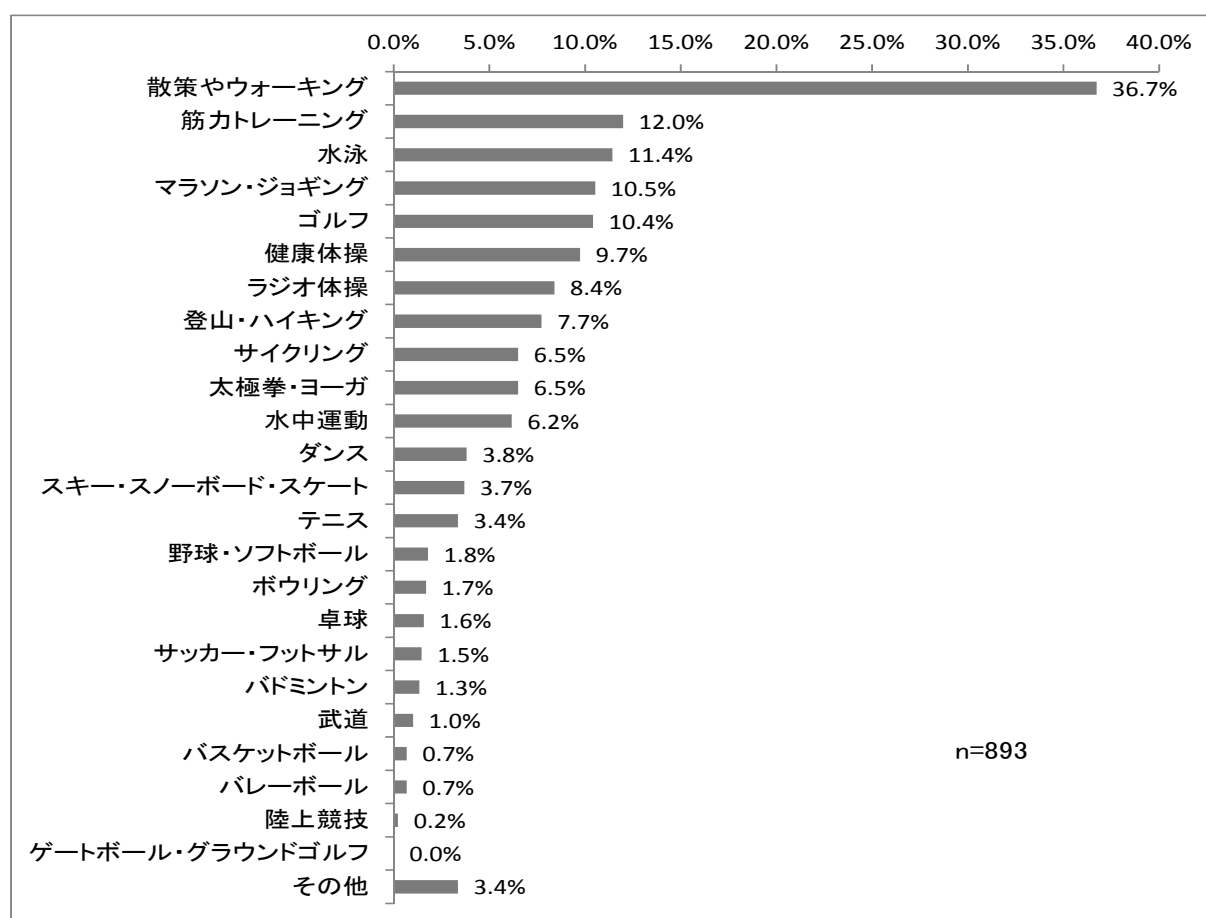
(2)この1年間に行った運動・スポーツ

区民が、この1年間に行った運動・スポーツは、「散策やウォーキング」がもっとも多く、36.7%でした。次に、「筋力トレーニング」(12.0%)、「水泳」(11.4%)、「マラソン・ジョギング」(10.5%)、「ゴルフ」(10.4%)、「健康体操」(9.7%)、「ラジオ体操」(8.4%)となっています。

参考までに全国(笹川スポーツ財団「スポーツライフデータ2010」、過去1年間に実施した種目、60種目の選択肢から複数回答)では、「散歩(ぶらぶら歩き)」(34.8%)、「ウォーキング」(24.5%)、「筋力トレーニング」(11.5%)、「水泳」(7.2%)、「ジョギング・ランニング」(8.5%)、「ゴルフ(コース)」(9.0%)、「ゴルフ(練習場)」(8.2%)、「体操(軽い体操、ラジオ体操)」(18.5%)、「野球」(4.5%)、「サッカー」(4.6%)となっています。

千代田区は、散策やウォーキングなどの身近な運動を、定期的に行っている区民が多く、また、水泳、ゴルフなどの人気が高いと推察されます。一方、広いグラウンドや多くの人数が必要となる、野球、サッカーなどの競技スポーツは、全国と比較して、実施率がやや低い傾向にあります。

図表 3-2 この1年間に行った運動・スポーツ(複数回答)



(出典)千代田区民世論調査(平成24年度実施)結果を、区民全体(スポーツをしていない区民も含む)の実施率となるように調整

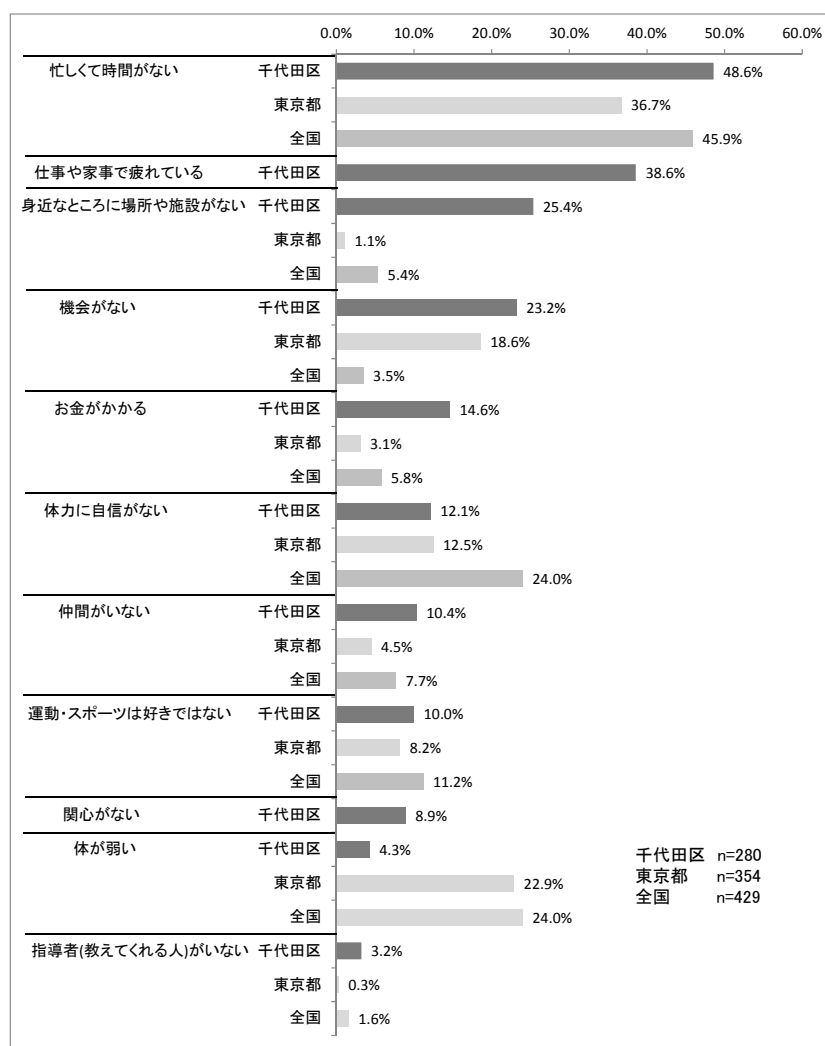
(3) 区民がスポーツを行わない理由

千代田区は、スポーツ実施率が高く、また、運動・スポーツを行わない理由として、「運動・スポーツが好きではない」「関心がない」と回答する区民が少ないことから、全国と比較して運動・スポーツを好きな人、愛好家が多い地域だと考えられます。

一方で、運動・スポーツをほとんど行わない（「年に数回」または「特にしていない」）理由として最も多いのは、「忙しくて時間がない」で 48.6%でした。次に多いのは、「仕事や家事で疲れている」（38.6%）で、日々の多忙な生活による忙しさや疲労感が、運動・スポーツを行う上での妨げとなっていることがわかります。

また、次に多い理由は、「身近なところに場所や施設がない」（25.4%）、「機会がない」（23.2%）でした。このことから、千代田区のスポーツ振興においては、「機会」と「場」の不足が課題となることがわかります。特に、忙しさや疲労感が妨げとなっていることから、楽しく参加できる「機会」と身近なスポーツの「場」の充実が求められます。

図表 3-3 区民がスポーツを行わない理由（複数回答）



(出典) 千代田区民世論調査(平成 24 年度実施)

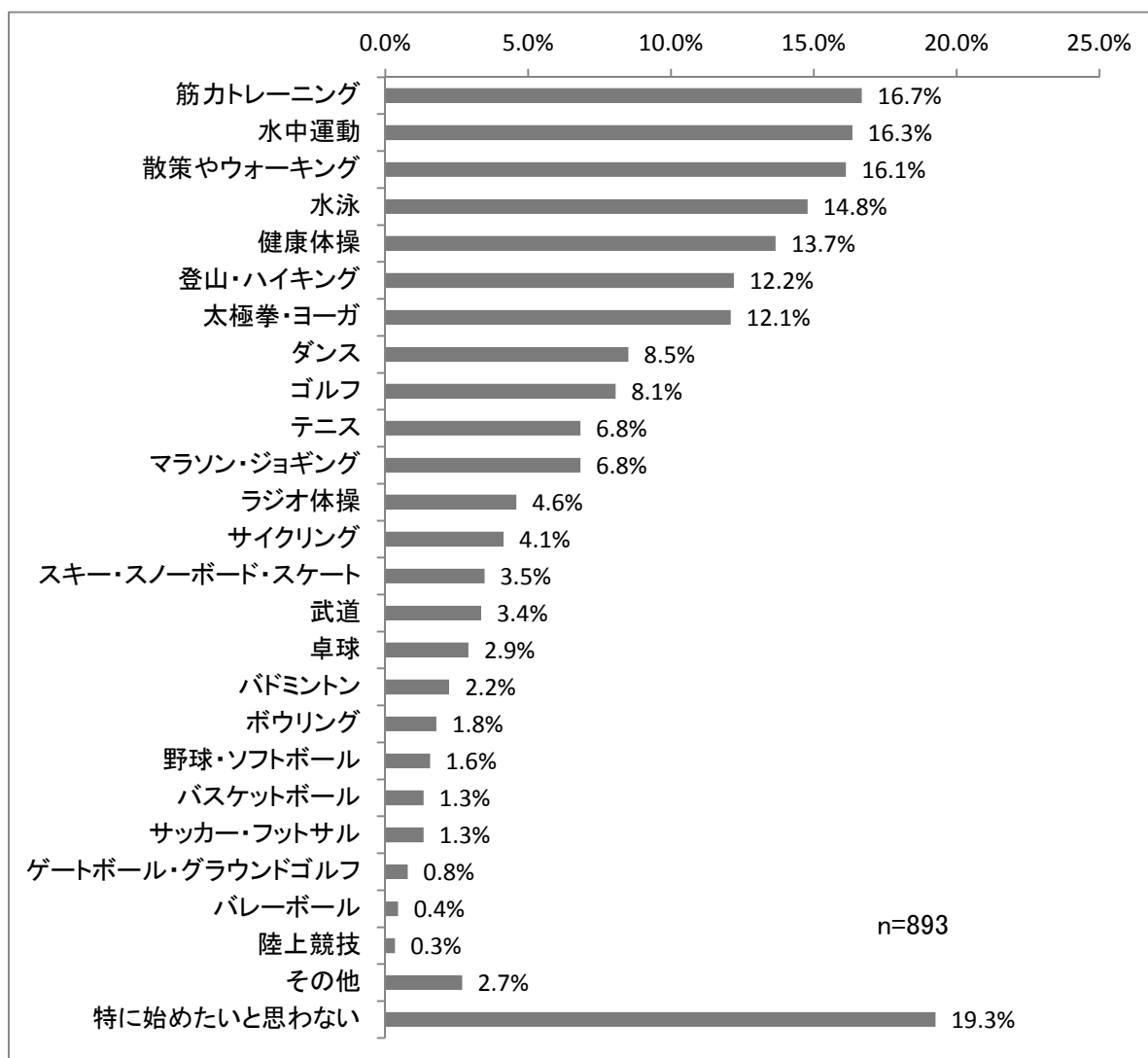
注: 東京都のデータは「都民のスポーツ活動に関する世論調査」(H24 年 10 月)より、

全国のデータは内閣府の「体力・スポーツに関する世論調査」(H21 年 9 月)より

(4) 今後行ってみたい運動・スポーツ

区民が、今後行ってみたい運動・スポーツは、「筋力トレーニング」がもっとも多く16.7%、次に多いのが、「水中運動」(16.3%)、「散策やウォーキング」(16.1%)、「水泳」(14.8%)、「健康体操」(13.7%)、などでした。野球やサッカーといった勝敗を競う競技スポーツだけではなく、健康づくりや体力づくりを目的とした運動や、手軽に身体を動かせる運動に対する要望が高いことがわかります。

図表 3-4 今後行ってみたい運動・スポーツ（複数回答）



(出典)千代田区民世論調査(平成 24 年度実施)

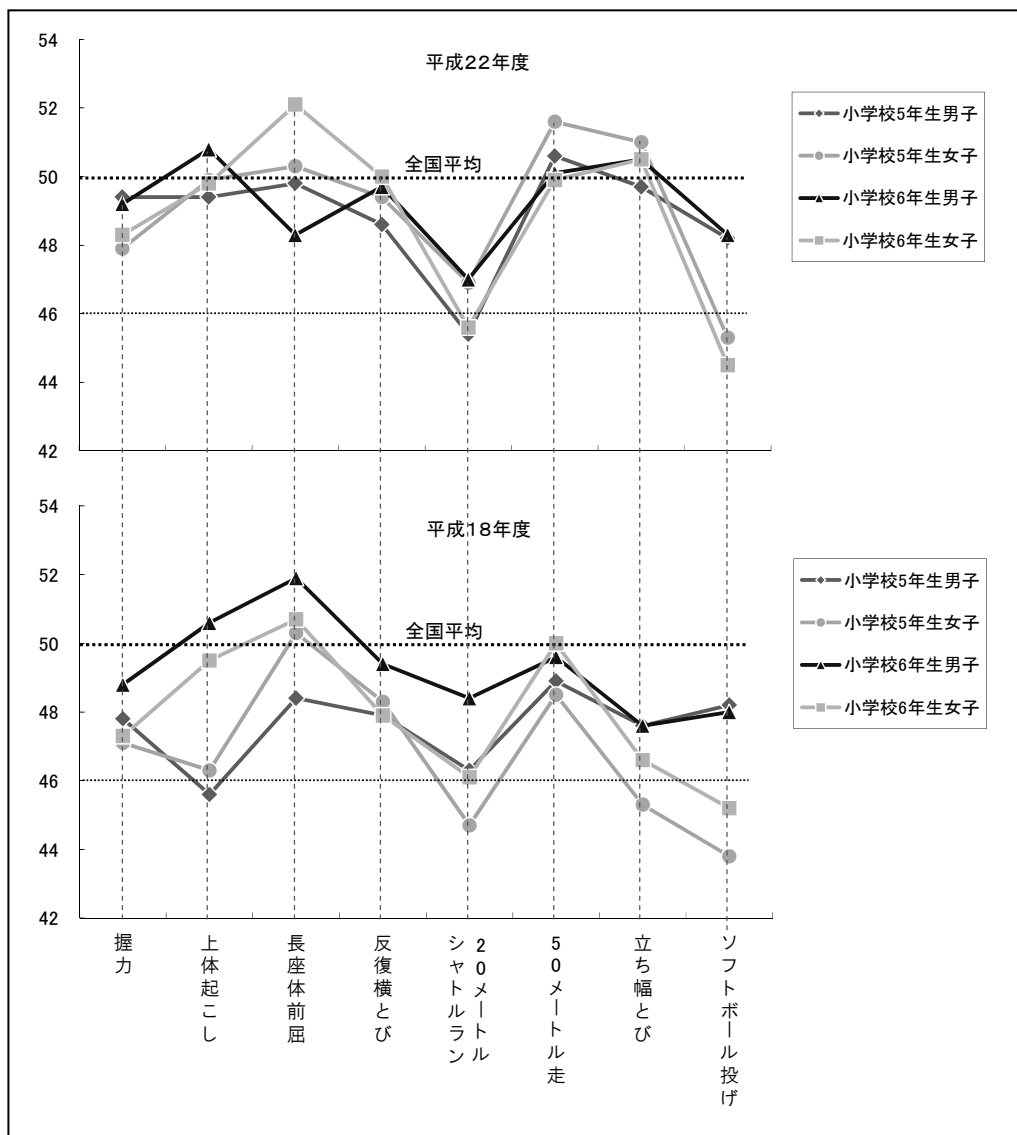
(5)子どもの体力

子どもの体力は、ピークだった1985年の水準には、届いていないものの、子どもの体力向上に向けて学校やスポーツ関係者が様々な取り組みを始めたことにより改善傾向にあります。

新体カテストが全国的に改善傾向にある中で、千代田区でも全国平均を上回る種目があります。

特に、「50メートル走」や「立ち幅とび」については、全国平均を超えるまたは、近いレベルとなっています。今後は、この千代田区の子どもたちの特長を活かして、体力向上を進めていきます。

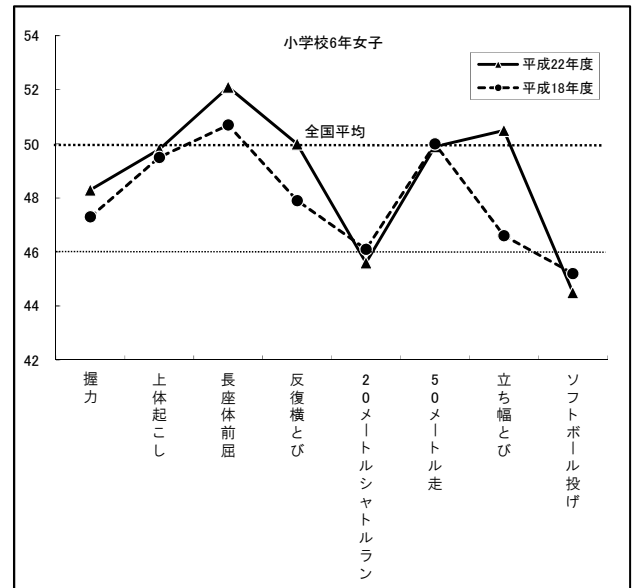
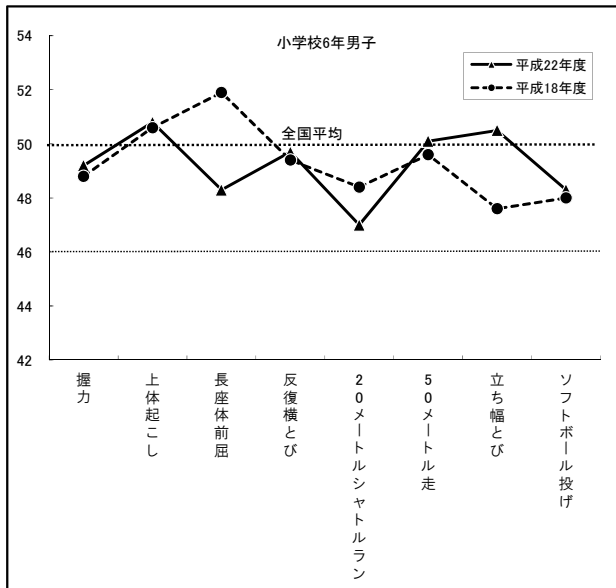
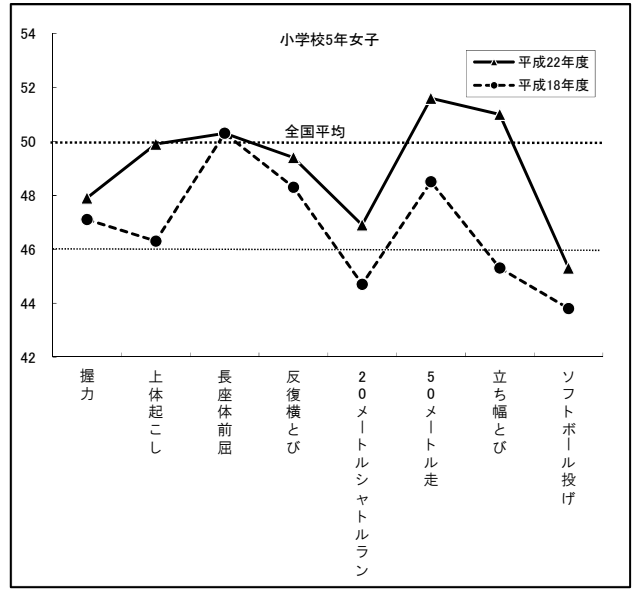
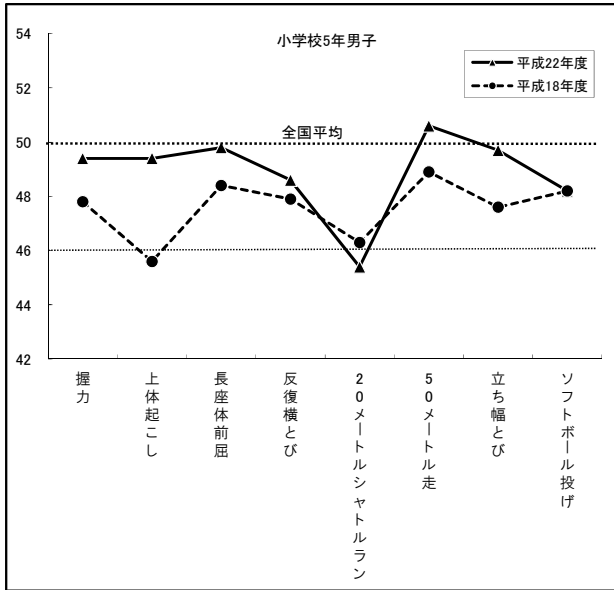
図表 3-5 新体カテストの全国比較



(出典)平成22年度千代田区立小学校新体カテスト結果報告書

平成18年度千代田区立小学校新体カテスト結果報告書

* 数値は、全国平均を50としたTスコア(偏差値)



(出典)平成 22 年度千代田区立小学校新体力テスト結果報告書
 平成 18 年度千代田区立小学校新体力テスト結果報告書
 * 数値は、全国平均を 50 とした T スコア(偏差値)

(6)生活習慣病予防対策

千代田区では平成19年度までは、生活習慣病予防対策の一環として、疾病の早期発見に努めるとともに、健康管理に関する正しい知識の普及と健康の保持増進を図るため、老人保健法に基づく「誕生日健診」を実施していました。平成20年度の医療制度改革により、生活習慣病の原因と考えられるメタボリックシンドローム（内臓脂肪型症候群）予防に着目した特定健康診査を医療保険者毎に実施することになりました。

区においては、千代田区国民健康保険加入者のうち、40歳～74歳の被保険者・被扶養者を対象として特定健康診査（＝「国保健診」）及び特定保健指導を実施しています。

また、75歳以上の後期高齢者医療制度加入者に対しては、東京都後期高齢者医療広域連合から委託を受けて、健康診査（＝「長寿健診」）を実施しています。

さらに、40歳～74歳の区民の方で、健康保険組合や共済組合などの保険加入者を対象に、「成人健診」を実施しています。

上記の健診の対象でない、20・25・30・35歳の区民の方にも、若年節目健診を実施しています。

厚生労働省は、平成24年「健康日本21（第2次）」を策定しました。その中で健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることのない期間）の延伸と健康格差の縮小の実現、主要な生活習慣病の発症予防と重症化予防等が新たな目標として挙げられています。

また千代田区でも、平成24年6月に「改定 健康千代田21【第2次】」を策定し、生涯にわたり健康な生活を営むことができるまちを基本理念とし、生活習慣病の予防、がんの予防、歯や口の健康づくり、心の健康づくりの4つの重点課題について積極的に取り組んでいくこととしています。

高齢社会を迎え、区民一人ひとりが自分らしく生き生きとした生活を続けるために、生活習慣病及びその予備軍といわれる人々の健康保持と区民の健康寿命を延伸することが重要です。そこで、スポーツの視点からも、区民に対し生活習慣病予防として日常的に運動の習慣を持つことや食生活の改善等の提案を行ってまいります。

図 3-6 国保健診・長寿健診・成人健診実施状況

(ア) 年代別受診者数

年代	区分	対象者数(人)			受診者数(人)			受診率(%)		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
合計		11,830	13,652	25,482	2,728	4,718	7,446	23.1%	34.6%	29.2%
平成23年度	40～49	3,736	3,884	7,620	467	875	1,342	12.5%	22.5%	17.6%
	50～59	2,808	2,563	5,371	483	782	1,265	17.2%	30.5%	23.6%
	60～64	1,520	1,584	3,104	353	582	935	23.2%	36.7%	30.1%
	65～69	1,161	1,298	2,459	357	546	903	30.7%	42.1%	36.7%
	70～74	917	1,161	2,078	323	536	859	35.2%	46.2%	41.3%
	75歳以上	1,688	3,162	4,850	745	1,397	2,142	44.1%	44.2%	44.2%
平成22年度		11,592	13,402	24,994	2,677	4,618	7,295	23.1%	34.5%	29.2%
平成21年度		11,258	13,093	24,351	2,867	4,914	7,781	25.5%	37.5%	32.0%
平成20年度		10,816	12,828	23,644	2,553	4,362	6,915	23.6%	34.0%	29.2%
平成19年度		10,802	12,791	23,593	2,768	5,037	7,805	25.6%	39.4%	33.1%

(イ) 判定結果別状況

年代	区分	判定結果別内訳										※介護予防事業の利用 が望ましい者	
		対象者	受診者	異常なし		要注意		要医療		加療中		G(人)	G/B(%)
		A(人)	B(人)	C(人)	C/B(%)	D(人)	D/B(%)	E(人)	E/B(%)	F(人)	F/B(%)		
平成 23 年度	合計	25,482	7,446	2,094	28.1%	1,595	21.4%	1,195	16.0%	2,562	34.4%	906	12.2%
	40~49	7,620	1,342	698	52.0%	337	25.1%	238	17.7%	69	5.14%	-	-
	50~59	5,371	1,265	547	43.2%	316	25.0%	234	18.5%	168	13.3%	-	-
	60~64	3,104	935	303	32.4%	227	24.3%	161	17.2%	244	26.1%	-	-
	65~69	2,459	903	236	26.1%	213	23.6%	152	16.8%	302	33.4%	87	9.6%
	70~74	2,078	859	169	19.7%	169	19.7%	131	15.2%	390	45.3%	157	18.3%
	75歳以上	4,850	2,142	141	6.6%	333	15.5%	279	13.0%	1,389	64.8%	662	30.9%
平成22年度		24,994	7,295	1,757	25.4%	1,744	25.2%	1,299	18.8%	2,495	36.1%	674	9.7%
平成21年度		24,351	7,781	2,192	31.7%	1,747	25.3%	1,245	18.0%	2,597	37.6%	767	11.1%
平成20年度		23,644	6,915	2,451	35.4%	1,288	18.3%	927	13.4%	2,269	32.8%	727	10.5%
平成19年度		23,593	7,805	932	12.2%	2,084	26.4%	1,658	21.2%	3,131	40.2%	125	3.1%

(ウ) 判定結果における主な疾病の有所見者数

単位:人(延数)

年代	区分	高血圧	脂質異常症	糖尿病	心疾患	肝疾患	腎疾患	高尿酸血症	貧血	眼底異常
		合計	2,392	3,011	926	1,810	701	1,067	666	821
平成 23 年度	40~49	64	261	43	170	87	90	100	138	76
	50~59	162	375	60	195	118	95	122	72	102
	60~64	234	376	105	178	95	101	93	45	106
	65~69	269	385	97	213	71	123	75	52	104
	70~74	319	402	146	231	79	115	66	73	49
	75歳以上	1,344	1,212	475	823	251	543	210	441	310
平成22年度		2,303	2,908	843	1,661	667	873	671	823	891
平成21年度		2,390	2,892	894	1,735	674	806	780	950	778
平成20年度		2,212	2,698	832	1,162	591	682	480	656	368
平成19年度		2,564	3,837	1,211	1,167	687	619	754	725	-

※有所見者とは、要指導、要医療又は加療中と判定されたもの

(出典)平成24年版千代田区事務事業概要(保健福祉部)

(7)要介護等

要介護等の認定者数は、平成21年度が1,834件、平成22年度1,921件、平成23年度1,979件であり、少しずつですが増加しています。

図表 3-7 要介護等の認定者数

	合計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
平成23年度	1,979	297	202	429	307	238	248	258
平成22年度	1,921	266	184	396	307	237	252	279
平成21年度	1,834	229	167	385	309	232	253	259
平成20年度	1,797	210	150	392	296	270	229	250
平成19年度	1,804	248	130	391	295	243	252	245

(出典)平成24年版千代田区事務事業概要(保健福祉部)

3.3 地域のスポーツクラブ・団体

(1)学校における運動部活動

平成24年度の時点で、区立中等教育学校（後期課程）では、バスケットボール、サッカー、テニス、ダンス、硬式野球、バドミントン、陸上、バレーボール、水泳、卓球、剣道、ソフトボール、ラグビー、柔道、テコンドーの15種目の運動部活動が行われています。部員は229名です。

区立中学校及び区立中等教育学校（前期課程）では、バスケットボール、サッカー、ソフトテニス、バドミントン、バレーボール、剣道、水泳、合気道、応援チア、野球、卓球、テニス、ソフトボール、ダンス、ラグビー、テコンドーの16種目の運動部活動が行われています。部員は3校合計で712名です。平成24年度の在籍生徒数は、3校合計で1,073人であることから、多くの生徒が運動部の活動に加入しています（複数の部活動に参加している生徒もいます）。

また、区立小学校では、バスケットボール、サッカー、バドミントン、卓球、水泳、ドッジボール等、4年生から6年生までの児童がクラブ活動を行っています。

(2)地域で行っている小・中学生のスポーツクラブ・団体

区立小学校8校のうち、3校においてミニバスケットボールのクラブが活動を行っています。4年生から6年生までの児童のうちクラブへの参加児童数は、3校合計で117名です。

また、千代田区少年野球連盟の登録団体として、小学の部7チーム、151名、中学の部4チーム、64名の計11団体、215名が活動しています。

その他、区内小学校施設を使用して、ジュニアスイミングクラブが3クラブ（千代田小、昌平小、麴町小）、剣道団体4クラブ（麴町、万世、千代田小、お茶の水）が定期的に活動しています。

(3)クラブ・サークル、同好会など

千代田区体育協会には、25 の団体が加盟しています。それぞれの団体には、クラブ・サークル、同好会などが登録されており、区民のスポーツ活動を支えています。また、クラブ・サークル・同好会には、在住者だけではなく、多くの在勤者が登録されていて、千代田区の特長となっています。

図表 3-8 千代田区体育協会加盟団体

相撲連盟	釣友連盟	軟式野球連盟
柔道会	バドミントン協会	卓球連盟
スキー協会	陸上競技協会	ラジオ体操会連盟
狩猟連盟	剣道連盟	弓道連盟
テニス協会	ソフトテニス連盟	水泳連盟
バレーボール連盟	クレール射撃連盟	民踊連盟
アーチェリー協会	空手道連盟	バスケットボール協会
ゲートボール協会	アマチュアダンス協会	ゴルフ協会
太極拳連盟		

(4)総合型地域スポーツクラブ

「総合型地域スポーツクラブ」とは、地域住民が主体となって運営する、多種目、多世代、多目的のスポーツクラブのことで、国のスポーツ振興基本計画（平成 12 年 9 月 文部省（現 文部科学省）策定）では、市区町村に 1 ヶ所の設置が目標として掲げられています。

前期計画の『総合型地域スポーツクラブ育成プロジェクト』では、①運営スタッフの育成、②総合型地域スポーツクラブの設立支援、③総合型地域スポーツクラブの会員確保や活動拠点確保の支援、④コミュニティスクールとの連携、⑤区と総合型地域スポーツクラブの協働の5つの施策に取り組んでいくこととしていました。

平成24年5月に、区内初の総合型地域スポーツクラブとして「富士見スポーツ・文化クラブ」が設立されましたが、クラブマネージャーやスタッフの育成・確保など運営に関する様々な課題があります。

また、一般開放を行っている施設を活動拠点としていることによる一般開放枠とクラブ利用枠の調整、地域におけるクラブの周知を進めるための広報活動、いろいろな種目を楽しむための新たな種目の実施なども課題となっています。

今後、これらの課題を解決する中で、富士見スポーツ・文化クラブが、たくさんの方々がスポーツに親しむ地域の拠点となるよう、自立に向けた運営の支援を継続していく必要があります。

1 名称等

- 1) 名称 富士見スポーツ・文化クラブ
- 2) 所在地 千代田区富士見1-10-3 富士見みらい館内
- 3) 設立年月日 平成24年5月6日

2 会員数（平成25年1月現在）

- 1) 個人143名
(一般会員71名、子ども会員36名、シニア会員36名)
- 2) 賛助会員10団体
(個人1名、団体9名)

3 活動種目等

平成25年1月現在

種目	会場	曜日	時間
ニュースポーツ	体育館 半面	日(隔週)	11:30~13:50
空手	体育館 半面	火	18:00~21:00
バドミントン	体育館 全面	日	9:00~11:20
卓球	体育館 半面	月	18:00~20:00
健康マージャン	地域交流室	日(隔週)	13:00~17:00
社交ダンス	交流室兼創作活動室	金	19:30~22:00

4 会費等

年会費及び参加費が必要です。

3.4 スポーツ施設

(1)千代田区の区立スポーツ施設

千代田区のスポーツ施設としては、区内にスポーツセンター、外濠公園総合グラウンドがあります。その他に学校や介護施設との複合施設として、ちよだパークサイドプラザほか小学校4校、いきいきプラザ一番町では、プールなどの設備があります。

スポーツ施設以外にも、26ヶ所の公園・広場等があり、中には、バスケットゴールやフットサルコート、介護予防遊具などが設置されている公園もあります。また、皇居内堀を周回する1周5kmのランニングコースなども千代田区の特徴です。

区民のスポーツをする機会を増やしていくためにも、千代田区では、スポーツ施設に限らず、公園なども含め、身近なところで身体を動かせるようなスペースの創出や整備の工夫を考える必要があります。

なお、スポーツセンターは、建設から40年が経過し、老朽化が進行しています。このため、設備については、平成24年度の大規模改修により更新を図りましたが、将来的に必要な新スポーツセンターについて検討を開始する必要があります。

また、花小金井運動施設については、平成25年度に野球のほかにフットサルやゲートボールなど多種目の競技が出来る施設にするため、改修工事を実施します。

図表 3-9 千代田区の公共スポーツ施設

施設名	住所	施設内の設備等
スポーツセンター	内神田2-1-8	主競技場(2面)
		卓球場(2面)
		剣道場
		柔道場
		弓道場
		相撲場
		トレーニングルーム
		多目的室
		プール
昌平童夢館(コミュニティスクール)	外神田3-4-7	プール
		体育館
		屋上校庭
神田さくら館(コミュニティスクール)	神田司町2-16	プール
		体育館
		校庭
麴町小学校(コミュニティスクール)	麴町2-8	プール
		体育館
		校庭
富士見みらい館(コミュニティスクール)	富士見1-10-3	プール
		体育館
ちよだパークサイドプラザ	神田和泉町1	プール
		体育館
いきいきプラザ一番町	一番町12	プール
外濠公園総合グラウンド	五番町	野球場・競技場
		テニスコート(2面)
花小金井運動施設	小平市花小金井南町3-2-7	軟式野球場(2面)
夢の島東少年野球場	江東区夢の島	少年軟式野球場(2面)
スポーツ開放校		麴町中学校体育館
		神田一橋中学校体育館
		旧今川中学校体育館
		旧練成中学校体育館
校庭開放校		区立小学校8校

図表 3-10 千代田区の公園・広場等

施設種別	施設名	施設内の設備等
区立都市公園 広場等	宮本公園(外神田 2-16-9)	
	芳林公園(外神田 3-5-18)	
	東郷元師記念公園(三番町 18)	介護予防遊具
	練成公園(外神田 6-11-19)	
	錦華公園(猿楽町 1-1-2)	
	淡路公園(神田淡路町 2-27)	
	西神田公園(西神田 2-3-11)	介護予防遊具
	神田児童公園(神田司町 2-2)	
	神田橋公園(神田錦町 1-29)	バスケットゴール
	佐久間公園(神田佐久間町 3-21)	
	三宅坂小公園(隼町 4-3)	
	龍閑児童公園(岩本町 1-14-1)	
	常盤橋公園(大手町 2-7-2)	
	清水谷公園(紀尾井町 2-1)	
	千鳥ヶ淵公園(麴町 1-2、一番町 2)	
	九段坂公園(九段南 2-2-18)	
	富士見児童公園(富士見 1-1-16)	
	神保町愛全公園(神田神保町 2-20-3)	
	和泉公園(神田和泉町 1-300)	
	秋葉原公園(神田佐久間町 1-18)	
	内神田尾嶋公園(内神田 1-5-14)	
外濠公園(五番町、富士見 2 丁目、九段北 4 丁目)		
小川広場(神田小川町 3-6)	フットサルコート・バスケットゴール	
都立公園 国民公園	北の丸公園(北の丸公園 1-1)	
	皇居外苑(皇居外苑 1-1)	
	日比谷公園(日比谷公園 1-6)	

(2)区立のスポーツ施設の利用状況

平成22年度及び平成23年度の区立スポーツ施設の利用状況については、平成23年3月に発生した東日本大震災の影響による利用の中止や、その後の節電による施設の開放中止などのため、利用者数が減少しました。

スポーツセンターの利用状況として、区民利用が約2割、在勤や在学者の利用が8割で、区民以外の利用率の高さが千代田区の特徴となっております。

また、スポーツセンターの稼働率をみると、施設や時間帯によって、大きなばらつきがあることがわかります。このため、平成24年度には、稼働率の低い施設（集会室など）の有効活用を図るため、床をフローリングに改修し、ダンスなどの運動も出来るよう多目的化を図るとともに、更衣・シャワー室の全面リニューアルを図り、快適に利用できるよう改修工事を実施しています。

図表 3-11 区立のスポーツ施設の利用状況

箇所名	施設名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	1日平均(H23)
昌平童夢館	プール	11,570	11,294	7,591	—
神田さくら館	プール	10,378	9,514	—	—
麴町小学校	プール	12,730	13,124	10,093	—
富士見みらい館	プール	—	1,238	—	—
ちよだパーク サイドプラザ	プール	8,546	8,519	726	24
外濠公園 総合グラウンド	野球場(件数)	617	752	723	—
	庭球場(件数)	2,026	2,332	2,280	—
	競技場(件数)	25	19	20	—
	合計(件数)	2,668	3,103	3,023	—
スポーツセンター	主競技場	78,978	76,475	75,306	219
	剣道場	15,605	14,127	14,272	41
	柔道場	14,479	13,986	13,528	39
	卓球場	23,050	20,288	21,054	61
	弓道場	22,048	21,133	27,615	80
	相撲場	2,331	2,399	2,472	7
	トレーニングルーム	52,900	49,685	46,910	136
	プール	43,704	41,153	48,098	140
	ゴルフレンジ	4,035	3,970	3,512	10
	多目的室	7,392	7,409	7,780	23
	集会室	15,279	16,610	12,161	35
合計	279,801	267,235	272,708	—	
いきいきプラザ 一番町	プール	22,905	17,894	15,608	—
合計	件数	2,668	3,103	3,023	—
	利用者数	345,930	328,818	306,726	—

(出典)平成24年版千代田区事務事業概要(区民生活部及び保健福祉部)

* スポーツセンターは、平成23年3月11日の東日本大震災の影響により、3月31日まで休業。4月中は夜間営業中止。主競技場は5月11日まで利用中止。

* 神田さくら館、富士見みらい館のプールは、23年度震災の影響に伴う節電のため開放中止。

* ちよだパークサイドプラザのプールは、23年度震災の影響に伴う節電のため10月のみ開放。

* 外濠公園グラウンドは平成23年3月11日～5月まで全夜間、7月～9月まで月・水曜日夜間、10月から月曜日夜間を震災の影響に伴う節電のため利用中止

図表 3-12 スポーツセンターの稼働状況(平成23年度)

施設名	時間帯	稼働率	施設名	時間帯	稼働率
プール	9:00～	61.5%	相撲場	午前	8.1%
	12:00～	100.0%		午後	5.5%
	15:00～	100.0%		夜間	38.1%
	18:00～	88.4%		小計	16.7%
	小計	87.5%			
主競技場	午前	76.2%	トレーニングルーム	午前	100.0%
	午後	92.8%		午後	100.0%
	夜間	98.7%		夜間	87.9%
	小計	89.2%		小計	96.2%
卓球場	午前	79.9%	多目的室	午前	51.7%
	午後	75.3%		午後	88.7%
	夜間	78.3%		夜間	89.5%
	小計	77.8%		小計	76.3%
剣道場	午前	39.8%	集会室 A	午前	8.1%
	午後	56.4%		午後	19.5%
	夜間	61.0%		夜間	17.5%
	小計	52.1%		小計	15.0%
柔道場	午前	46.8%	集会室 B	午前	12.2%
	午後	51.5%		午後	20.3%
	夜間	84.8%		夜間	20.0%
	小計	60.3%		小計	17.4%
弓道場	午前	29.1%	集会室 C	午前	14.5%
	午後	61.9%		午後	28.8%
	夜間	85.7%		夜間	27.6%
	小計	58.1%		小計	23.5%
			合計 (プールを除く)	午前	47.4%
				午後	58.5%
				夜間	66.4%
				小計	57.2%

図表 3-13 その他の区立施設の稼働状況(平成23年度)

施設名		稼働率
外濠公園総合グラウンド	野球場	50.9%
	テニスコート	71.5%
花小金井運動施設		31.9%
夢の島東少年野球場		28.2%

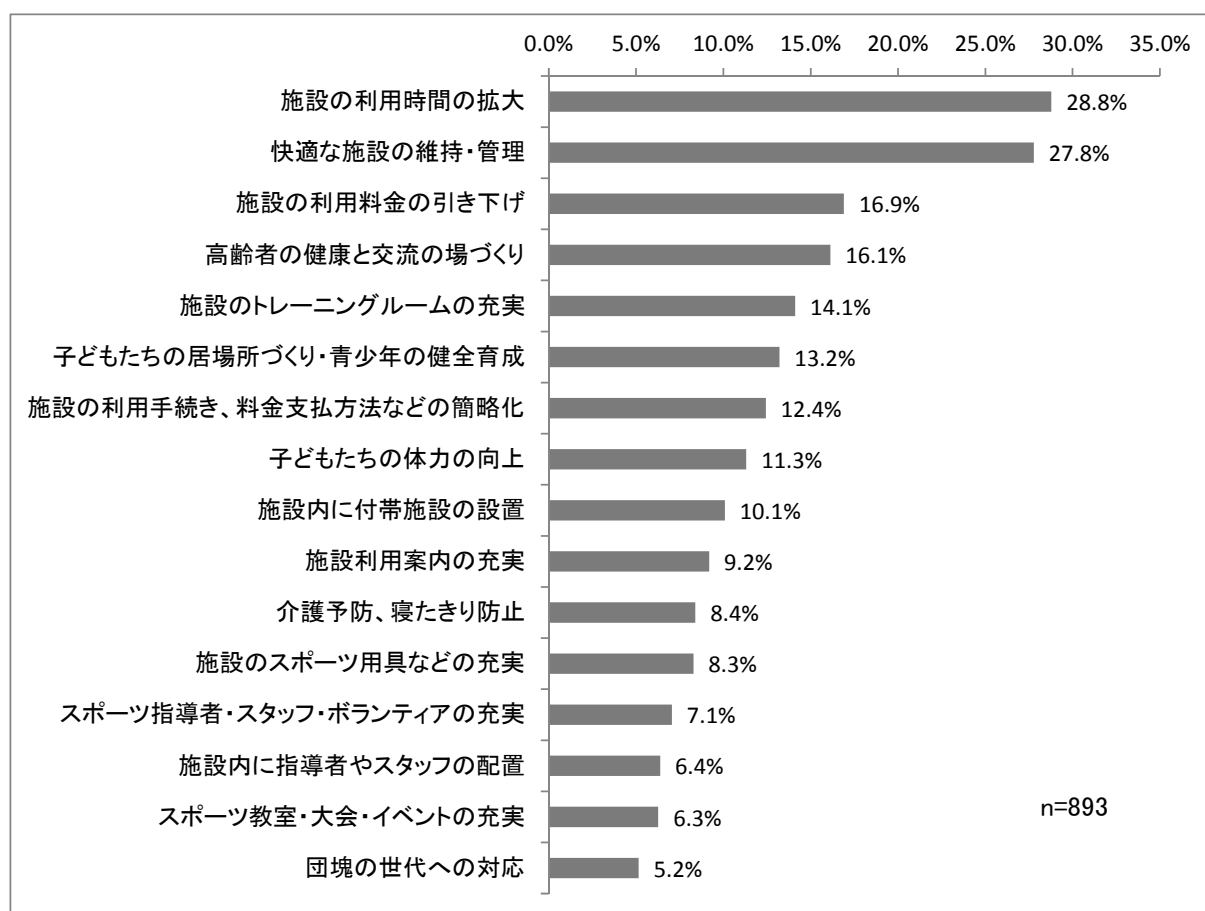
* 稼働率は、利用があった枠数／総利用枠数として算出

*夢の島東少年野球場は、利用があった日数／年間利用可能日数として算出

(3) 公共スポーツ施設への要望

公共スポーツ施設に対する区民の要望としては、「施設利用時間の拡大」(28.8%)がもっとも多く、次いで、「快適な施設の維持・管理」(27.8%)、「施設の利用料金の引き下げ」(16.9%)となっています。用具や機材の充実よりも、生活時間に合わせて、使いたいときに、快適に利用できる施設が求められていることがわかります。

図表 3-14 公共スポーツ施設への要望(複数回答、3つまで)



(出典) 千代田区民世論調査(平成 24 年度実施)からの抜粋

<参考>

○スポーツセンター運営 平成 23 年度経費 約 1 億 4,800 万円

○利用者一人当たり 564 円 (平成 23 年度年間利用者数 273,610 人)

(4)スポーツ施設の数

千代田区の区立のスポーツ施設 1 施設あたりの人口（夜間）は、2,206 人となっています。全国平均は 2,672 人、東京都の平均は 6,458 人なので、千代田区は全国や東京都よりも、施設数に対する人口が少ない（人口に対して施設数が多い）こととなります。一方で、昼間人口との比率からみると、区立のスポーツ施設の数は、全国や東京都と比較して極めて少ないことも、考慮する必要があります。

図表 3-15 区立のスポーツ施設数と人口

	施設数	人口	1 施設当たりの人口
千代田区(夜間人口)	22	48,538	2,206
千代田区(昼間人口)	22	819,247	37,239
全国	47,925	128,056,026	2,672
東京都	2,038	13,161,751	6,458

(出典)施設数は、平成 20 年社会教育調査

(出典)人口は、平成 24 年 1 月 1 日現在(千代田区昼間人口のみ平成 22 年国勢調査)

* 施設数は、上記調査に基づき、個別施設(例:体育館、トレーニング室など)の数とする。

(5)中学校等のスポーツ開放

平成 17 年度の学校再編で、中学校が 5 校から 3 校になりましたが、閉校となった 2 施設でも引き続きスポーツ開放を実施しています。平成 18 年度には、九段中学校の閉校にともなって実施校が減りましたが、4 つの施設においてスポーツ開放を実施しています。平成 23 年度には、合計で 4,671 人の利用があり、そのうち、81%にあたる 3,781 人が在勤者となっています。

図表 3-16 中学校等のスポーツ開放の状況

		平成 21 年度(4 施設)	平成 22 年度(4 施設)	平成 23 年度(4 施設)
実施日数		332	314	262
利用者数	在住者	1,021	1,151	890
	在勤者	5,286	4,897	3,781
	合計	6,307	6,048	4,671

(出典)平成 24 年版千代田区事務事業概要(区民生活部)

* 平成 23 年度は、震災の影響に伴う節電のため、4~5 月の開放を中止しました。このため実施日数が減少しています。

(6) 区立保養施設等でのスポーツ環境

自然と親しみながら、保養・スポーツ・レクリエーション等の利用できる区立保養施設等は、4施設あります。日頃、自然と触れ合う機会が少ない区民が、高原と山々に囲まれた環境の中で、季節に応じた運動やスポーツを楽しむことができます。

図表 3-17 区立保養施設等とそのスポーツ環境

施設名	所在地	主な運動やスポーツのための設備や環境
孺恋自然休養村	群馬県吾妻郡孺恋村大字千俣 2401	(春から秋) ・テニス(施設内にコート2面を保有) ・散策やウォーキング (冬) ・スキー(付近の民間スキー場を利用) (通年) ・研修室の活用可
メレーズ軽井沢 (軽井沢少年自然の家)	長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉字横吹 2141	(春から秋) ・テニス(付近の民間テニスコートを利用) ・散策やウォーキング (通年) ・研修室の活用可
箱根千代田荘	神奈川県足柄下郡箱根町強羅字向山 1320-275	(通年)
湯河原千代田荘	神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 637	・散策やウォーキング

3.5 スポーツ指導者

(1) スポーツ推進委員

平成23年に制定されたスポーツ基本法では、これまでの「体育指導員」が果たしてきた「スポーツの実技指導」、「スポーツに関する指導及び助言」に加えて、「地域スポーツ推進のための連絡調整」すなわち企画や運営を行うコーディネーターとして新たな役割が追加され、名称も「スポーツ推進委員」に変更されました。

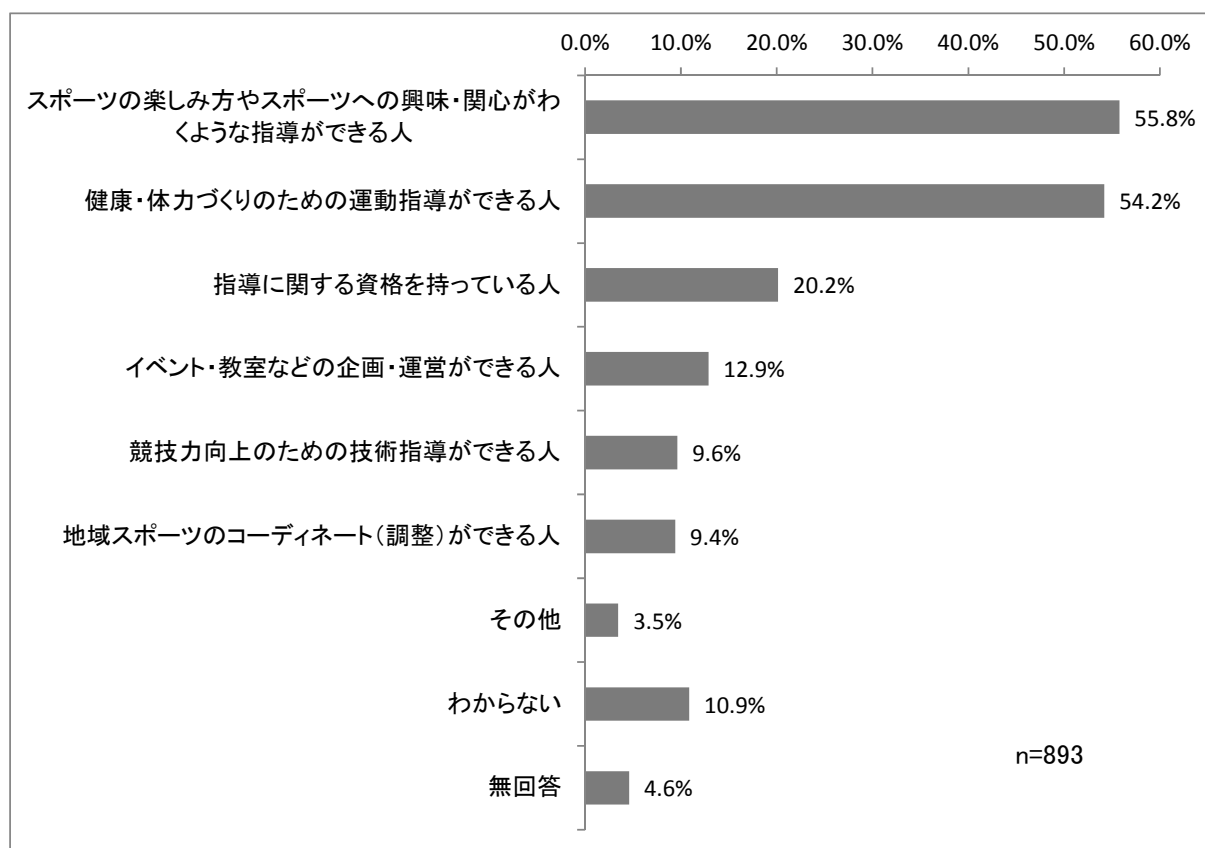
千代田区では、23名のスポーツ推進委員が、区民のスポーツ活動を支えています。スポーツ推進委員は、誰もが身近なところでスポーツが楽しめるよう、技術の向上や場所の確保、クラブの育成方法などについて知識が豊富な指導者で、区民体育大会や総合型地域スポーツクラブへの協力、各スポーツ大会の実施、ニュースポーツ(ドッチビー、ビーチボールバレー)などの普及に活動しています。

(2) 区民が求めるスポーツ指導者

区民が必要だと考えるスポーツ指導者として多くあげられたのは、「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」(55.8%)と「健康・体力づくりのための運動指導ができる人」(54.2%)でした。スポーツの指導者には、競技やスキルアップに関する専門的な能力だけではなく、参加者の運動・スポーツに対する動機づけを高める能力や、健康や身体に関する知識も求められていることがわかります。

また、部活動における体罰や指導中の暴力など、スポーツの現場における旧来型の指導方法の課題が顕在化する中、コーチングなど新たな指導方法を修得し、様々な状況下において、適切な指導が行えるよう、指導者のスキルを高めていくことが大切になっています。

図表 3-18 区民が求めるスポーツ指導者(複数回答、3つまで)



(出典)千代田区民世論調査(平成24年度実施)

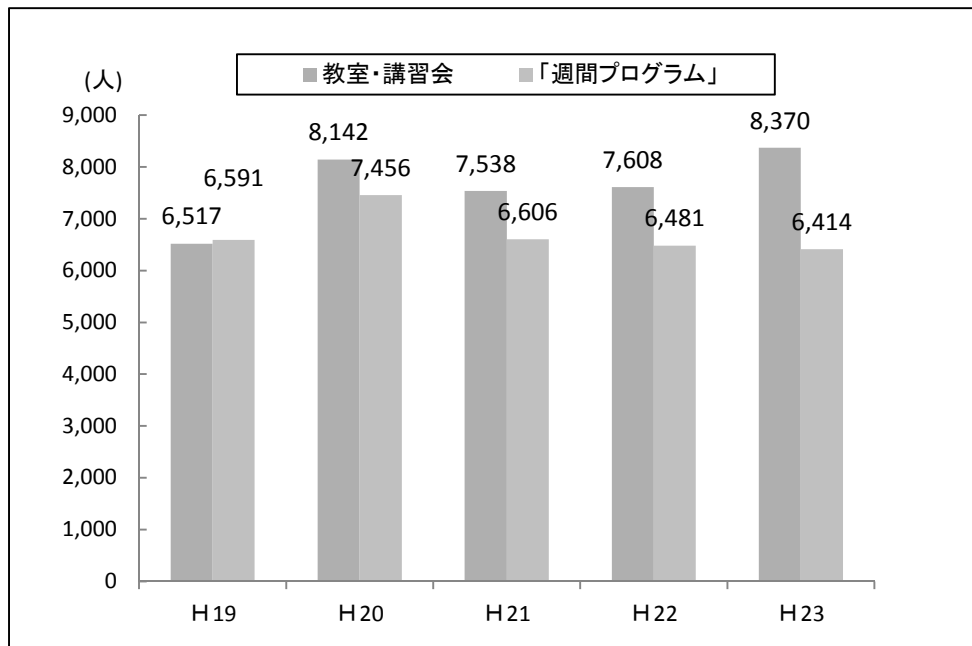
3.6 スポーツに関するイベント

(1)教室・講習会

千代田区では、区民（在住・在勤）参加型の事業として、球技、武道、水泳、スキーなどの教室・講習会を開催しています。また、日常的な運動・スポーツの機会としては、スポーツセンターで、「週間プログラム」（健康づくりの体操など）を展開しています。参加者数は、合計で延 1 万人を超えています。

今後は、より気軽に教室や講習会に参加できるように、短時間のメニューを取り入れるなど更なる工夫が必要です。

図表 3-19 講習会等への参加者数



(出典)平成 24 年版千代田区事務事業概要(区民生活部)

* 人数は延数

(2)スポーツ大会・競技会など

千代田区では、区体育協会、スポーツ推進委員協議会などの主催で、様々なスポーツ大会や競技大会などを開催しています。区民スポーツ大会は、在住者を対象に、地域の交流・親睦を主な目的とした大会で、平成 23 年度には、ソフトボール、ファミリーバレーボール、ボウリング、ニュースポーツ（ドッチビーやビーチボールバレー）などが開催されました。

また、スポーツ競技大会は、年齢別、競技レベル別に多様な大会が開催されており、平成 23 年度には、22 種目で 67 の大会が開催されました。

(3)区民体育大会

千代田区では、区民体育大会を、外濠公園総合グラウンドで例年開催しています。区民体育大会は、8 つの各連合町会、体育協会、スポーツ推進委員などにより構成された実施

委員会が運営しています。

平成 24 年度の区民体育大会は、第 50 回の節目となりました。スポーツ祭東京 2013 のマスコットキャラクター「ゆりーと」と民踊連盟による「ゆりーと音頭」や浅草サンバカーニバルに参加したチームによるサンバの披露など、節目を飾る華やかな大会となりました。

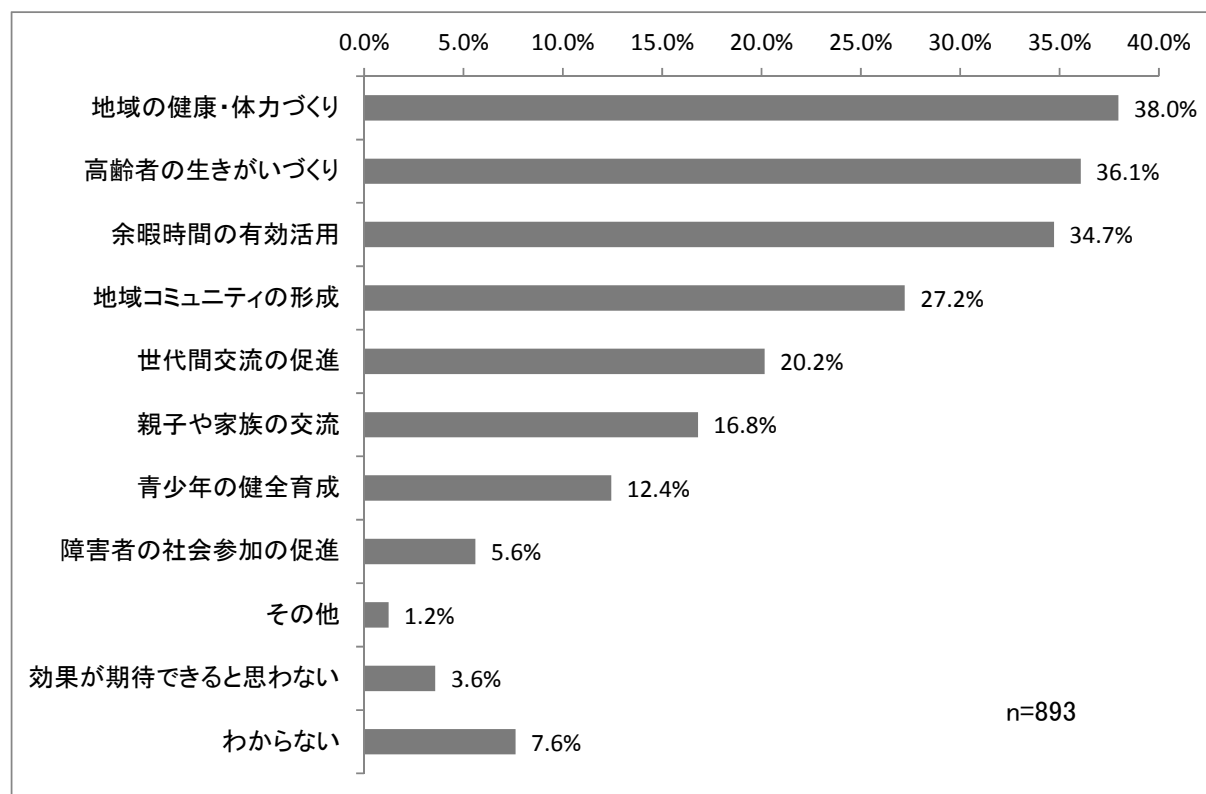
3.7 区民がスポーツに期待すること

運動・スポーツが地域にもたらす効果として区民が特に期待することは、「地域の健康・体力づくり」(38.0%)、「高齢者の生きがいづくり」(36.1%)「余暇時間の有効活用」(34.7%)です。千代田区のスポーツ振興においては、「健康」、「生きがい」、「余暇の充実」についての取り組みの充実が求められます。

また、「地域コミュニティの形成」、「世代間の交流」、「親子や家族の交流」、「青少年の健全育成」にも、一定の回答があり、スポーツは多岐にわたる期待が寄せられていることがわかります。

前回調査との比較では、減少している項目が多い中で、「世代間の交流」(+3.3 ポイント)、「高齢者の生きがいづくり」(+2.5 ポイント)、「地域コミュニティの形成」(+0.6 ポイント) など、コミュニティや交流などに関する期待が増加しています。

図表 3-20 区民のスポーツに対する期待(複数回答、3 つまで)

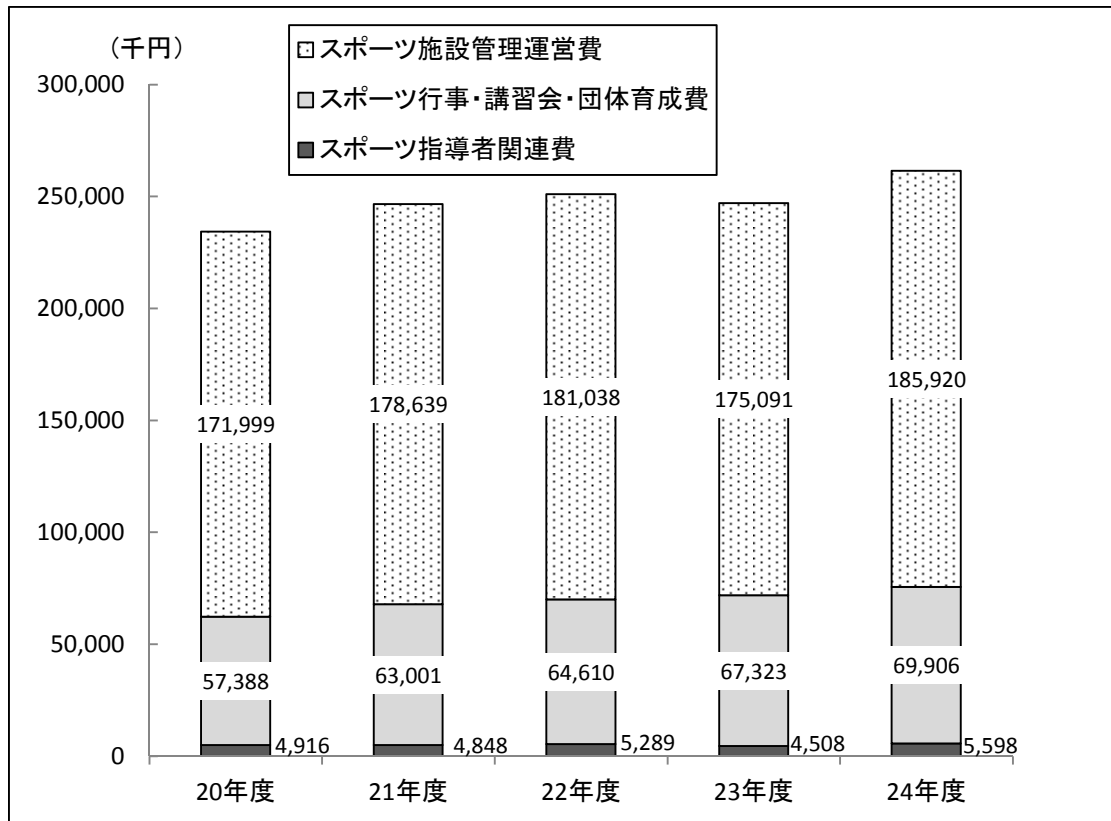


(出典)千代田区民世論調査(平成 24 年度実施)からの抜粋

3.8 千代田区のスポーツ振興費

千代田区のスポーツ振興費は、施設改修費のスポーツ関係費を除くと、2.3～3 億円ほどで推移しています。もっとも割合が高いのは、施設関連の費用で、全体の 8 割程度を占めています。

図表 3-21 年度別スポーツ振興費(予算)



(単位:千円)

内 容	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
スポーツ指導者関連費 (スポーツ推進委員等の活動費)	4,916	4,848	5,289	4,508	5,598
スポーツ行事・講習会・団体育成費 (スポーツ大会・講習会の開催費や、 スポーツ団体への補助金等)	57,388	63,001	64,610	67,323	69,906
スポーツ施設管理運営費 (スポーツセンター等の管理運営の ための経費)	171,999	178,639	181,038	175,091	185,920
小 計	234,303	246,488	250,937	246,922	261,424
施設改修等スポーツ関係費	0	3,296	41,600	34,700	644,456
合 計	234,303	249,784	292,537	281,622	905,880

※ 単位表示未満を端数調整しています

なお、平成 24 年度は、スポーツセンターの老朽化に伴う給排水・空調設備の改修経費として、約 6 億 3 千 2 百万円が予算計上されてます。